

図画像資料を用いた近代景観の研究

研究キーワード



- ①歴史・伝統文化
〈近現代史〉

満洲経営、日中関係史、戦後の引き揚げに関する研究

- ②文化振興活動

地域に眠る未公開の歴史資料（近代）の調査と公開
近現代の図画像資料（古写真や絵葉書等）の歴史研究、観光、文化財保存への活用

連携アピール



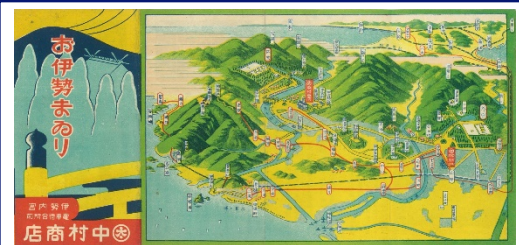
- 近現代の図画像資料（古写真や絵葉書、版画、鳥瞰図など）を用いて、歴史的な景観や失われた建築の姿を明らかにし、当時の人々の社会・空間等に対する認識を分析する研究にも取り組んでいます。また、個人の自宅や神社、寺院などに未公開のまま残された歴史的資料の調査と整理を行い、研究資源や地域の観光振興のための資源として公開する活動も行っています。過去には、古写真に写された情報を手掛かりにして、空襲で焼失した東京の寺院の扁額の復元を行ったり、戦前期の伊勢を撮影した映像を発掘してメディアで紹介したりしました。研究室では数千枚の戦前の絵葉書、数百点の戦前の観光ガイドなどを所蔵しており、書籍の出版や展覧会、自治体の印刷物などに資料を提供し、活用を図っています。

本研究の概要

- ①満洲経営に対する肯定的な世論が国内で形成された背景をプロパガンダや教育内容などから分析し、日本と満洲地域の関わりについて多面的に明らかにします。また、宗教（特に仏教）を通じた日中交流や、中国における学術調査（東亜同文書院など）について調べています。満蒙開拓団の引揚げ後の生活再建について、特に天理教開拓団（満洲天理村）を事例として三重県内での戦後再開拓を分析しています。
- ②写真や絵葉書などの図画像資料からは、失われた景観や文化の在り様を知ることができます。描かれたもの・写されたものと文字史料をクロスしながら歴史資料としての活用方法を探り、分析を進めています。



満洲土産の絵葉書（1930年代）



近代伊勢の観光案内（1930年代）

研究者



長谷川 怜（はせがわ れい）
文学部国史学科 助教

